

国際協力の指標（すぐに役立つ開発指標の話 第22回）

著者	野上 裕生
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	193
ページ	66-67
発行年	2011-10
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://doi.org/10.20561/00046068

国際協力の指標

Grant Element and Commitment to Development Index

野上 裕生

● グラントエレメント

開発途上国への協力に関わる資金には政府開発援助（ODA）、それ以外の政府資金（Other Official Flows：OOF）がある。このなかには無償のものや返済の必要な借款が含まれているので、全体として途上国に対してどのくらいやさしい条件であるか（譲許条件）を評価するのはなかなか難しい。そこでOECDの開発援助委員会（DAC）は一九六八年に開発途上国への資金協力の借款条件の譲許条件の程度を示すひとつの指標としてグラントエレメント（Grant Element）という概念を提示した。グラントエレメントの計算方法は「基本公式」を参照されたい。返済額がゼロならばグラントエレメントは一〇〇%になるし、この値が二五%以上であることが政府開発援助の要件のひとつになる。これは、ODAは開発途上国の発展を目的にしたものであるからであ

る。グラントエレメントが二五%に達しない開発途上国向け融資には輸出信用（自国内で生産された設備等の輸出や自国から開発途上国への技術の提供に必要な資金の融資など）や国際機関に対する融資などがある。グラントとは元本や利子などの返済義務を課さず供与する援助であるが、グラントエレメントは借款の場合にどの程度、グラントの供与条件に近いかを示すものである。借款条件の緩やかさを示す指標であるグラントエレメントによって償還期間や据え置き期間、金利、借款の通貨建てなどが異なる有償援助案件の譲許性について案件間の比較ができるようになる。グラントエレメントの基本公式や数値例にあるように、借款の償還期間や据え置き期間が長いほどグラントエレメントは大きくなる。

● 開発貢献指数

先進国が援助に加えて貿易や投資など全ての政策で一貫して

途上国の開発支援に前向きであるかを評価しなくてはならない、という考え方が広まってきた。このような流れを受けて、ワシントンD.C.に拠点があるシンクタンク、世界開発センターは二〇〇三年から先進国の対外政策を、援助以外の分野も含めて途上国の開発支援になっているのか、という問題意識から格付けした開発貢献指数（Commitment to Development Index：CDI）を公表してきた。CDIは主要な先進国を対象として援助、貿易、投資、移民、平和維持活動、環境、技術の七つの分野にそれぞれ独立したスコアを作成し、その単純平均をとることによって総合得点を算出している。CDIは、その計算方法が頻繁に改定されていて要約するのが難しいが、個々の領域の指標についておおまかに述べれば、以下のようになっている。

援助：ODA/GDP
ただし援助実行にともなう行政コストは差し引き、「ひも付き」援助は二〇%だけスコアを減ずる。借款の場合には過去の債務に対す

る元本・金利返済を差し引く。最貧国やガバナンスの良い国へのODAには高いウェイトを付ける。

貿易：開発途上国からの輸入に対する貿易障壁（関税、輸入数量割当、国内生産者に対する補助金）を関税等価値に直したものの（七五%のウェイト）、途上国（非DAC諸国）からの輸入の全輸入に対する比重（二五%のウェイト）。
投資：海外直接投資等が途上国の発展にどのくらい役立つ

基本公式

グラントエレメント（GE）は以下のように求められる。

$$GE = \frac{\text{融資額} - \text{元本と金利返済の現在価値}}{\text{融資額}}$$

ここで現在価値とは将来のお金（の流れ）の価値を、今の時点で評価したもので、1年間の金利が10%の時100円を貯金すると1年後には110円になるので、1年後の100円は今の時点では100 / (1.0 + 0.1)、約91円の価値を持つと考えられる。現在価値の計算で利用される利子率は「割引率」と呼ばれている。グラントエレメントの割引率は10%に設定されている。

ているかについて対象先進国の概要をチェックしたものの。移民・移民や難民の受け入れに関する様々な指標を集計したもの。

安全保障（平和維持活動）… 国連の平和維持活動等にとのくから貢献しているかをチェックしたもの。

環境… 地球環境の保全に対する貢献度をチェックしたもので、全体の六〇％は気候変動問題、一〇％は漁業、三〇％は生物多様性と地球生態系の問題に関するものである。

また二〇〇六年の改定では「技術」に関する指標が加えられている。それは政府による研究開発支援（ただし軍事技術は割り引かれる）や知的所有権政策がどの程度まで制約的であるか（特許など）を評価したものである。

● **CDIの問題点**

表は世界開発センターのホームページから入手した資料に基いて、長年上位にあったデンマークと下位にあることが多かった日本のCDIを比較したものである。ただ、CDIには批判もある。たとえば貧困国への無償援助が高く評価される傾向にあるのに途上国への貸し付けは低く評価されるので、贈与

表 開発貢献指標（Commitment to Development Index : CDI）
デンマーク

年	援助	貿易	投資	移民	環境	安全保障	技術	CDI
2010	13.1	5.9	4.7	5.7	6.3	6.2	5.7	6.8

日本

年	援助	貿易	投資	移民	環境	安全保障	技術	CDI
2010	1.1	2.4	4.6	1.8	5.2	2.2	6.0	3.3

（注）CDIは上記7項目の評点を単純平均したものである。
（出所）世界開発センター（Center for Global Development）のホームページ（http://www.cgdev.org/section/initiatives/_active/_cdi2006/inside、およびhttp://www.cgdev.org/section/initiatives/_active/_cdi/、からインターネットを通じて入手した資料から筆者作成（2011年5月6日および6月29日、7月5日アクセス）。

よりも借款の多かった日本は相対的に低い順位を付けられてしまう。どのような指標も、それは現実の一面を切り取ったものであることには注意しなくてはならない。

（のがみ ひろき／アジア経済研究所 開発研究センター）

《参考文献》

ODAやOOF、グラントエレメントに関する解説は白井早百里「二〇〇五」『マクロ開発経済学：対外援助の新潮流』有斐閣、六八―六九ページ、および吉川智教「一九九三」「円高により一九七〇年代の円借款のグラント・エレメントは大幅に減少する」『国際開発研究』第一巻、

第二号、七五―八五ページ等を参照した。CDIはRoodman, David [2010] *The Commitment to Development Index: 2010 Edition*, Technical Paper, Washington D.C. Center for Global Development（世界開発センター（Center for Global Development）のホームページ http://www.cgdev.org/section/initiatives/_active/cdi/）の再検討」FASID Discussion Paper Number 1」等を参照した。

グラントエレメントの数値例 今、利子率はゼロ、据え置き期間1、償還期間が4、資金の割引率が10%であるとする、1単位の融資のグラントエレメントは以下ようになる。元本を償還期間から据え置き期間をのぞいた期間（=3）の間に均等に返済すると、この融資の返済額の現在価値は

$$\frac{1/3}{(1.1)^2} + \frac{1/3}{(1.1)^3} + \frac{1/3}{(1.1)^4} \approx \frac{0.826 + 0.751 + 0.683}{3} = 0.753$$

$$GE = \frac{1 - 0.753}{1} = 0.247$$

これは25%に達しないのでODAの要件を満たさない。そこで償還期間を5に延長すると、1単位の融資の返済額のグラントエレメントは

$$\frac{1/3}{(1.1)^2} + \frac{1/3}{(1.1)^3} + \frac{1/3}{(1.1)^4} + \frac{1/3}{(1.1)^5} \approx \frac{0.826 + 0.751 + 0.683 + 0.621}{3} = 0.72025$$

$$GE = \frac{1 - 0.72025}{1} = 0.27975$$

これは25%に達しているのでODAの要件を満たしている。このように償還期間や据え置き期間を長くすれば、その借款のグラントエレメントは大きくなる。